

牧師室から (2023.5.28)

一週間ほど前から右手首が痛んでいる。掃除をするときは、モップや掃除機は左手で掛けるが、なかなか難しい。鍵盤の上で指を動かしても痛いし、パソコンでキーボードを打っても痛む。作曲家ラヴェルが、戦争で右手を失ったピアニストのために左手用の協奏曲を作ったことは良く知られている。でもこれは独奏曲ではないし、楽譜も手元にないので聴くだけにしてみた。独奏曲としてはスクリャピンが、やはり自身で右手を痛めた時に左手のために作った小品があるのでこれを聴いてみた。なかなかいいので小品が集められている楽譜を取り寄せようとしたが、届いた曲集には残念ながらそれが含まれていなかった。ということはあまり顧みられない曲なのかもしれない。

聖書の中で、左利きの人はだれかという、おそらくペトロがその一人であろう。なぜなら福音書にはイエス様が捕らえられたときに、大祭司の手下マルコスの右耳を剣で切り落としたと記されているからだ。ところが、レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』を見ると、ペトロといわれているのは、イエス様の左側のヨハネとユダの間に顔を突っ込んでいる男だが、彼は左手をヨハネの首に、また右手にナイフあるいは剣を持っている。これが食事用のナイフならわかるが、剣であるとしたら彼は右利きとなるのではないかと思った。イエス様が捕らえられたときに、剣を鞘に納めるようにといわれたのはペトロである。その意味では彼が手にもって描かれているのは、手下の耳を切り落としたことを暗示するものなのかもしれない。

私は右利きなので、料理をしていて包丁で指を切ってしまうのは大抵左手である。だからよく指に絆創膏をしている人を見ると、どちら手の指にしているかをまず確かめてしまうのが私の習慣になっている。

私の手首は、お風呂に入ると痛みが和らぐので、大したものではないと思っているが、早く治ってほしい。

(鈴木淳一牧師)